

ASVCC 日本語仮訳 ムクウェゲ医師10月3日記者会見

コンゴ民主共和国は過去23年、戦争が続いている。その紛争の特徴は、女性の体が紛争の武器として使われていることである。

1999年に妊婦をケアするためにパンジ病院を設立したが、想像できないことが起きた。それは、最初に治療した患者の女性は7人にレイプされ、かつ性器が撃たれたこと。このような残虐な行為を見たのは初めてだった。

これは正気の沙汰ではないと思ったが、その考えが間違いと分かった。なぜなら、私たちはそれ以降、約55,000人の女性を治療してきたからだ。その女性らは性的暴行を受けていただけでなく、性器は銃や鈍器などで傷つけられていた。

こうしたレイプが公然と夫や父親たちの目の前で行われ、尊厳を失っている。その精神的と社会的な影響を想像できるだろうか。

最初は医療を施していたが、それだけでは彼女たちが人生を取り戻し、コミュニティに再編入されるには足りなかった。

私たちの病院では、総合的な手当—医療的と精神的—を行ってきた。だがそのあと、生存者が回復した後に、彼女たちが性暴力を受けたために捨てられたコミュニティに戻り、経済的に自立できるようにする必要がでてきた。彼女たちがコミュニティの負担とならないように。

身体的、精神的、経済的という3つの柱を通じて、女性たちが立ち直ったとき、尊厳の問題に直面し、その後、正義と補償の問題が立ち現れた。今は協力してくれる弁護士たちがいて、女性たちの訴訟やその闘いを支えている。

その総合的な手当の一環として、ワン・ストップ・センターというシステムを立ち上げた。被害に遭った女性たちが一回だけ話をすれば、それだけでケアが受けられるようにする場所である。

この総合的アプローチを通して被害者の人権を補償している。ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカの紛争地域でも、レイプは「敵」を打ち負かす目的のために、紛争当事者によって利用されてきた。

私たちの闘いにおいて、「レイプの中心地」と呼ばれているコンゴでは、国内においても国際的にも、法律や人権の面でほとんど何も実行されていない。

国連人権高等弁務官がコンゴで調査を行い、2010年に「マッピングレポート」を公表した。この報告書で、「虐殺」の罪を含む、617件以上の戦争と人道に対する罪が明らかになった。残念なことに、コンゴでは、第二次世界大戦以降、世界中で最多の紛争犠牲者を生んだ。1996年に開始したコンゴ紛争で600万人以上が亡くなり、400万人が避難民となった。

マッピングレポートがいくつか明確な提言をした中で、最も重要なのは混合裁判所の設立を通じて正義をつらぬくことである。被害者が真実を語る必要がある。被害者の身に何が起きたのか、なぜそのようなことが起きなければならなかったのか。被害者と加害者の和解のためには真実が必要で、真実が究明された時に初めて正義が実現し、和解がなされ、紛争の終結が訪れる。しかし、マッピングレポートが公表されて約10年が経つにもかかわらず、提言は1つも実行されていない。

行く先々で、被害者は不処罰の終焉を要求したが、政府は性暴力を重要な問題として捉えなかった。だからこそ、私たちがイニシアティブをとる必要があった。

この10年間、国際社会に対して性暴力被害者のための補償を訴えてきた末に、グローバル基金の設立に向けて動き出した。そしてこの基金は10月30日、ニューヨークにてノーベル平和賞の共同受賞者である、ナディア・ムラド氏とともに設立する。

最後に、ナディア氏とともにこの1年間取り組んできていることを紹介したい。私たちは、G7の男女平等諮問委員会の共同議長として、法律を整える国際的な取り組みが必要であると訴えてきた。G7が男女平等を実現することによって、世界に手本を示して欲しい。

この諮問委員会では、G7の首脳たちに79の先駆的な法律を示し、その中から自国で有益なものを選び取るように提言した。また、今日でも、G7各国の中に差別的な法律があり、そうした法律を撤廃するように要求した。

これらの79の法律は4つのグループに大別される。まず1つ目は、女性に対する性暴力に終止符を打つもの。2つ目は、女性への教育の提供、健康と生殖への権利を与えるもの。3つ目は、女性に経済的自立へのアクセス、特に雇用を得るようにするもの。最後に、政治活動への女性の参加を推進するものである。

質疑応答

Q1: 10月30日に設立するグローバル基金について、どこの国が協力し、誰が主導し、どのくらいの額が設定されているのか？

A1: 参加国はほとんどが国連加盟国であるが、支援を希望している民間セクターにも参加を呼びかけている。フランス(600 万ユーロ)、EU(200 万ユーロ)、ドイツなどから支援を得ている。今回の来日中に日本にも参加を呼びかけたいと思っている。私たちは集まった資金を性暴力被害者の支援に役立てるよう責任を持って行きたい。

基金の管理は加盟 4 か国から成る評議会が行う。この評議会によって資金の用途を決める基準を定める。その評議会のメンバーについては輪番制にする。国連機関、性暴力生存者、市民社会、民間セクターもそのメンバーに含める。

私たちは 2 つのタイプの国があると考え。1 つ目は、補償を提供したいが、どのように提供したらいいかわからない、あるいは資金がない国。いくつかの国が補償を試みたが、大失敗だった。2 つ目は、レイプが紛争の武器として使われたという証拠があるにもかかわらず、その事実を認めようとせず否定している国である。私たちはこのような国にも呼びかけていかないとならない。

Q2: 日本について第二次世界大戦での慰安婦の問題があるが、十分な補償がされていると思うか？

A2: 慰安婦問題について私たちは両国の政治的な成熟とこの問題について対話を続け、平和へといたる解決策を見つける力を信頼している。すでに両国がこの問題に取り組んでいるのだから、これは私たちが介入するケースではない。両国は過去に何かが起きたことを認め、解決策を模索している。

Q3: この記者会見に参加するにあたり、『女を修理する男』をもう一度観た。そして再度、あなたの国の未来を導こうとする言葉に感動した。大変辛い目に遭った女性たちの勇気について、どう思うか？

A3: 私は常にコンゴの女性たちから勇気もらっている。そしてこの勇気は、行く先々どこでも見られる。あれほどの苦しみを味わったにもかかわらず、女性らにはレジリエンス、立ち直る力、自分自身だけでなく自分の子どもや家族、コミュニティの世話をする力があるからである。その勇気がコンゴを再建させると信じている。私たちがケアした女性たちは、コミュニティの真のリーダーとなっている。彼女たちは社会の真の変化の担い手であり、痛みを力に変えることができる。

Q4: 日本のレイプに関する法律は 130 年以上前に制定されてから変わっていない。今年、ある女性ジャーナリストが、行政幹部から性暴力を受けたと提訴した。その行政組織(長崎市)は謝罪せず、暴力を認めていない。あなたは自伝で、診察する医師の行為は神聖なものだと考えていた

ために、「医師が襲われるとは思ってもみなかった」と書いている。彼女のケースは、取材中の被害であり「国民に必要な情報を届ける仕事をしていて、記者の仕事は守られるべきものと思っていた」ので、あなたの感じ方に似ていた。しかしその彼女は被害にあっけし、落ち込んでいる。この女性にメッセージを頂けないか。あるいは性暴力を否認する長崎市長に対するご意見はないか？

A4:このようなことは世界各地で起きているため、残念なことである。そのために私は、共同議長を努めている G7 の諮問委員会において、女性を保護する法律を G7 内のみならず世界中で整備することに努力を傾けた。女性が男性と対等だとみなされている国は世界中どこにでもある。つまり私たちは家父長制のシステムにおり、私たち全員の責任だと考えている。女性は 100 年間、闘ってきた。第二次世界大戦後、戦場で亡くなった多くの男性たちの代わりに女性はきちんと仕事ができることを証明し、自分たちの権利のために闘ってきた。そして多くの権利を獲得した。しかし今日、女性が男性と対等とみなされている国はただの一つもない。この家父長制システムを長続きさせているものは沈黙である。性暴力を受けた女性は沈黙を余儀なくされている。なぜなら、レイプをした人間ではなく、レイプされた人が恥を抱えなければならないからである。告発するのではなく、口をつぐむことを強いられている。その女性ジャーナリストのように、沈黙を破った女性は指弾され、セカンドレイプを受ける場合がままある。一度目はセクハラや性暴力の被害を受けたことで、そして二度目はそれを告発したことで辱めを受けることを意味する。この女性ジャーナリストに対して、私のメッセージは「あきらめるな、あなたは正しい、闘い続けなさい」である。世界は全員の力で変わるのではなく、正しいことをしていると信念をもって行動している個人によって変わるのだから。

Q5:ノーベル平和賞の受賞以来、あなたが注力し続けていることは？あなたの達成してきたことは？ノーベル平和賞受賞によって何が変わったか？

A5:私が注力し闘い続けていることは、正義と平和の獲得だ。正義なしに平和は実現できない。私たちの国は、正義を犠牲に平和を獲得しようとしている。私はコンゴで起こったことに対し補償を 10 年間求めてきた。グローバル基金の立ち上げは、その成果である。これによって女性たちに対し補償を提供することができる。

Q6:コンゴ政府はあなたの活動に支援的かどうか？

A6:現時点でコンゴ政府からの支援はわずかである。新大統領と初めて 1 週間前に対面した。実

際に起こったことを共有したが、前向きな感触を得た。新しい政府が積極的であることを願っている。前政権の時は消極的だったが、よくなると期待して見守っている。

今日の午後、JICA の理事長と面会し、パンジ病院内に中核的研修拠点を設立することを話し合う予定だ。この拠点は、医師や精神科医、そして先ほど言及した4つの柱に関連する人々を要請するための施設である。イラクやその他支援が必要な地域にパンジ病院の医師を派遣したい。パンジ病院のようなワン・ストップ・センターを各地に拡大したい。パンジには必要なインフラもありスキルも提供できる。日本政府とも支援について話し合う。

Q7: 地域による違いがあるが、アフリカでは女性器切除が大きな問題だ。あなたの考えは？

A7: もちろん地域による違いはある。男性は女性をモノとみなしている。男女の間の支配関係が重要な問題である。ブルキナファソでは法律的には違法だが女性器切除が行われ、肉体的のみならず精神的にも深い傷を負わせている。彼女たちには弁護士を手配し法的に闘えるよう支援している。